

名戸ヶ谷ビオトープだより

第 68 号 2017 年冬号

<http://nadogaya-biotope.org/>

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 発行

発行責任者：篠崎 将 Tel/Fax 04-7173-6353

第 15 回定期総会開催

2017年1月28日（土）「名戸ヶ谷ビオトープを育てる会」第15回定期総会が、名戸ヶ谷ふるさとセンターで開催されました。

出席者数23名（委任状6名）、来賓3名と多数の出席で、篠崎会長、環境政策課の原田課長の挨拶で始まりました。議案の審議では、全般・稲作・生きもの・植物・広報について2016年の報告と2017年の計画の審議があり、全員の拍手で承認されました。また会計の決算・監査報告、予算案、及び会則の改定、役員改選についても全員の拍手で承認され無事終了しました。

会が発足して15年。会員のメンバーも少し変わりましたが、年月の過ぎるのが早く感じられます。今年も宜しくお願いします。



懇親会でも活発な意見が出ていました



篠崎会長の挨拶

総会、講演会を終えた12時過ぎから懇親会が行われました。都合で一部退席される方もいましたが多くの会員と環境政策課員が参加し、有意義で楽しい時間を過ごしました。今年は名戸ヶ谷小学校5年生が田植えからの稲作学習に参加する予定なので楽しみです。観察会の支援等についても、皆さんの応援をお願いします。幹事の皆さん、ご苦労様でした。

(小笠原 智)



女性会員も多数参加して頂きました。今後も支援をお願いします

第2部 講演「柏市の環境政策について」

柏市環境政策課 森山博文氏

総会後 11 時から 11 時 50 分に渡り掲題について講演が行われました。出席者には「柏市環境基本計画について」と「柏市環境基本計画（第三期）概要版」の資料が配布され、これらに沿って内容の説明がありました。終わりに質疑応答もあり、柏市の環境問題への取組姿勢が大まかに理解出来たと思います。引き続き日々の自然環境保全活動を頑張りたいと思います。森山様、大変有難うございました。内容資料は右の通り。



講師 森山氏



熱心に聞いています

1. 改定の背景
柏市の人口予測、農業従事者及び農地の減少、柏市の地目面積の変遷、まちづくりの課題、まちづくりの将来動向
2. 基本的事項
改定方針、目的と対象、位置付け、計画期間、推進主体
3. 各分野ごとの取組
自然環境分野、生活環境分野、快適環境分野、地球環境分野
4. 情報発信と協働
 - ① 環境情報の発信、共有
 - ② 協働の推進
 - ③ 市民との協働
 - ④ 事業者との協働
 - ⑤ 民間団体活動の促進
 - ⑥ 公共団体等との協力・連携
5. 重点プロジェクト
 - ① 谷津田の保全
 - ② 3R の推進
 - ③ 緑のオープンスペースの確保
 - ④ 省エネ・創エネの促進
 - ⑤ 環境学習の推進
6. 計画の推進

(藤平 三郎)

ビオトープに「イタチ」が出没



昨年から何人かが目撃したと言われていた「イタチ」をBゾーンの木道下に隠れたつもりのところを撮影することに成功しました。このビオトープには肉食性のイタチの食べ物になる生き物が豊富に棲息している証です。我々が長年このビオトープを育てる活動を続けてきた成果の一つであろう。 (小笠原 智)

ニホンイタチ (食肉目 イタチ科)

1月にビオトープでニホンイタチ（または単にイタチともいう）が発見された。日本では本州から四国、九州に生息していたものが、のち北海道に移入された。水田や畑が残っていれば宅地化が進んだ地域でも生息している。千葉県では県内ほぼ全域に生息している。

全身が褐色で胴体が長く、足が短い。大きさは雄 29～37cm、雌 20～26cm、体重オス 400～800g、メス 130～200g、頭胴長はオス 29～37cm、メス 25～26cm、尾長はオス 11～15cm、メス 7～10cm でありオスに比べてメスは著しく小さい。千葉県立中央博物館の調査によると、野ネズミ類、鳥類、昆虫類のほかに、アメリカザリガニ、カエル、

魚類なども食べているという。4月頃交尾し、出産は5～6月、1回に4～5頭の子供を生む。死体で回収される個体は、圧倒的にオスが多い。千葉県立中央博物館で回収した41体のうち、メスはわずか4体だけであったという。出生時の性比は、ほぼ1:1というから、回収死体の性比の違いは、雄雌の活動性の違いを反映していると言える。

日本における商業目的による毛皮の利用は、オスに限り捕獲が認可されている。また、西日本では外来種のチョウセンイタチが在来種を駆逐しつつ、勢力拡大中という。動物の移入は慎重であるべきだ。 (篠崎 将)

「植物保全」の担当になって

私にとっては大先生のような佐々木さんから植物の担当を引き継いでしまいました。

しっかりサポートしますからと言われても気が重いのは変わりません。今まで「好きな事しかしない。出来る事しか出来ない。」で通してきた私ですが「好きなビオトープで出来る事をやればよいのだ。」と考えることにして、もう暫く植物を楽しみたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

ところで最近、うれしいことがありました。名戸ヶ谷ビオトープが大好きだと言う年配の男の人に出会いました。俳句手帳を片手にまだまだ冬枯れ姿の A ゾーンを暫く眺めていました。早い春を探しにみえたのでしょうか。お聞きしてみるとこの場所が好きで、柏駅の近くの自宅から何回もここを訪れるとの事。ここが湧水だったころの事、子供の頃は長野で米づくりをしていて、ビオトープの稲が育っていくのが楽しみな事、身近に鳥が見られる楽しみ、等々、木道を歩きながら次から次へととても楽しそうに話をしてくださいました。ビオトープを絶賛されて、こちららもすっか

り嬉しくなっていました。決して華やかとはいえない、5分も歩けば全部見渡せてしまいそうな、場所に何度も足を運んでくださる方がいるのです。日頃 名戸ヶ谷ビオトープの知名度の低さを嘆いておりましたが、この方にビオトープが励まされているようでとてもうれしく思いました。

そこで私も一句

『ハンの花 ゆれて 目覚めよ ビオトープ』



春の作業についてひと言

冬に刈り残した枯草の片づけ。ヒメヘビイチゴの周りの草刈りをします。ヒメヘビイチゴは A ゾーン湿地と B ゾーン三角池の横の木道のすぐ下に出てきます。オヘビイチゴもあります。違いを観察してみましよう。4月ごろには地面を這って広がっていき花を咲かせますので 周りの草を刈って元気に育つように護ってやりましよう (山村 和子)

月例活動状況のお知らせ

12月から2月までの会員の月例活動状況をお知らせします。

12月17日(土)

会員 12 名参加のもと、恒例の年末大掃除として、ビオトープ内周辺の雑草の除去や、Bゾーンの葦の刈り取り、ハンノキ幼木の移植等を行いました。



Bゾーンの葦の刈り取り風景



ハンノキの移植

1月21日(土)

年が明け最初の月例活動日には 13 名の会員の参加がありました。Bゾーンのニホンアカガエルの産卵池の整備やAゾーンの水田の畦の付近のカエルの産卵しそうな場所の整備を行いました。またホタルの生息場所の整備を行い、来るべき幼虫放流時期に備えました。



Bゾーン 蛙の産卵池の整備後の風景



Aゾーン 圃場の畦際の整備風景

2月18日(土)

例年、2月の月例活動日は受託作業は特になく時期ですが会員の皆様に今回は生きもの観察として、ニホンアカガエルの卵塊調査を実施しました。会員 10 名の方が参加されました。蛙の卵塊調査は今後3月中旬までの毎週土曜日に実施する予定で、調査結果は担当者より報告する予定となっております。

(藺田 廣満)



2月のビオトープ内の収集したゴミの状況です。

新入会員の自己紹介

黒須留美子



東京から柏市増尾に引越してきて早41年。

当時は住宅地から5分ほどの所に、まだ里山ふうの耕作田んぼが存在していて、幼い子供たち3人をつれて、よく出かけました。

特に、記憶に残っているのは、夏の夜・・・自然発生した蛍をそっと手の中に包み込み、大切に観察した後、とつても惜しそうにたんぼに、そっと放した様子でした。

実は私自身疎開した千葉県久留里線の馬来田駅近くで暮し、その幼い頃の体験が宝物のようになっていて、このことを子供たちが身近に感じ取ることで、大変よかったです。

子供たちが巣立った後、自然観察など折りにふれて、学習しておりましたが、この度思いがけず「名戸ヶ谷ビオトープ育てる会」に入会でき、今後先輩方にいろいろ教えていただけるのが、とても楽しみです。

今や、大阪で暮す孫との会話でビオトープの話で盛り上がっております。こちらに来た時には一緒に散歩しながら、この広大な土地での豊かな大自然を楽しむ夢がふくらんできました。

体力の続く限り、会員として働かせて頂きたく、お願い致します。

名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか？

交通：柏駅東口より東武バス（5番乗り場）「名戸ヶ谷行き」「新柏行き」で「名戸ヶ谷病院前」下車
面積：約4,400㎡ 湿性生物：57種 生きもの：161種（内、千葉県指定保護生物26種）

（2013年、年間を通じて観察した生きものの種類）